

認知症医療の質の向上をめざして～貼付剤の有効活用～

浦上 克哉

鳥取大学医学部認知症予防学講座（寄附講座）

認知症基本法が成立し、あらゆる職種が認知症対策に取り組むことが求められている。抗アミロイド β 抗体薬が処方可能となり、より早期の診断ならびに診断後支援が必要となっている。

まず、軽度認知障害(MCI)を早く見つけて抗アミロイド β 抗体薬に繋げることが期待される。しかし、抗アミロイド β 抗体薬の対象にならない方も多い。

症状改善剤を、より有効に活用するためにはアドヒアランスの向上が大事である。抗認知症薬で最も大事なことは服薬管理である。服薬管理をする上で貼付剤は、服薬状況を可視化することができるメリットがある。アリドネパッチはドネペジルを貼付剤として使用できるようにしたもので、効能も高く且つ服薬を可視化でき高いアドヒアランスを期待できる。アリドネパッチをドネペジル経口薬と比較したデータでは、全体では有意差が得られていないが非劣性の検証で効果が劣っていないことを示し、MMSE が 20 点～26 点のグループでは有意な改善を示している。貼付剤の副作用として皮膚症状があげられるが、発赤、かゆみ共に重篤なものはなく安全性も高いと考えられる。

私の自験例では、もの忘れの改善、やる気が出てきた、集中力が向上した、食欲がアップしたなどの改善がみられ、また感情が安定した症例も経験した。皮膚の副作用は少なく、あっても軽微なものが多く安全に処方できた。

アリドネパッチは高いアドヒアランスを有し効果が期待でき、症状改善薬の中では第 1 選択薬としてよいのではないかと考える。